

2015年9月11日
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦
担当ワーキンググループ主査 松行 美帆子

モンゴル国フルメン風力発電事業
(協力準備調査(有償 PPP))
ドラフトファイナルレポートに対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時：2015年8月21日(金) 14:01～16:19
- ・場所：JICA 本部(111 会議室)
- ・ワーキンググループ委員：二宮委員、松行委員、米田委員
- ・議題：モンゴル国フルメン風力発電事業(協力準備調査(有償 PPP))ドラフトファイナルレポートに対する助言案作成
- ・配布資料：1) ドラフトファイナルレポート
2) 環境影響評価報告書
3) 生計回復枠組み計画
4) スコーピング案ワーキンググループ助言対応表
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン(2010年4月)

全体会合(第62回委員会)

- ・日時：2015年9月11日(金) 14:30～17:30
- ・場所：竹橋合同ビル(会議室：竹橋研修室 8A)

上記の会合にて助言を確定した。

助言

全体事項

1. エネルギー規制委員会（ERC）や環境グリーン開発観光省（MEGDT）など、特別目的会社（SPC）を監督する機関や環境面から事業に関与する公的機関の役割を含めて、関係する各主体の関係性と責任をFRに明確に図示すること。

代替案の検討

2. 3つの事業候補エリアの比較検討で、エリア が最適となる理由が項目ごとに明確となるようFRに記述すること。
3. 風力発電機の多様な配置案から二つの設計案を設定した評価の視点・プロセスをFRに明記すること。
4. 機器輸送ルートの代替案で、中国国内のルートの差についてもFRに記述すること。

環境配慮

5. 影響評価において、発電所については供用後に人が常駐することによる影響もFRに記述すること。
6. 影響評価の章は記述内容と項目の整合性を再確認し、まとめの表を見直してFRに記述すること。
7. 鳥類（特に猛禽類）への影響調査および営巣管理等の緩和策については、次の点に留意しつつ実施すること。
 - 「モ」国内の既存事例等。
 - 「モ」国の大学や研究機関、NGO等の鳥類専門家からの助言。

社会配慮

8. 地域経済・雇用・生計について、工事中の雇用が地元遊牧民の伝統的な生活スタイルに影響を及ぼさないよう、できる限り配慮すること。

以 上